

解答

一　問一　どうでもよく、重要なことではない」と。

問二　試合を見なう形の質問

試合の内容や経緯を選手自身に語らせること。

問三　アーティスト　2 エゴイスト　3 エッセイスト　4 スペシャリスト

問四　ロマンチスト　5

二　1 ウ　2 ア　3 イ　4 エ
三　1 しおしお　2 ずけずけ　3 こせこせ　4 とげとげ　5 むけ

四　1 a 公正　2 b 後世　3 c 構成　4 a 気候　5 紀行

五　1 空前絶後　2 起死回生　3 晴耕雨読　4 南船北馬　5 右往左往

六　1 冬　2 秋　3 夏　4 冬　5 春

七　1 A 救責　2 B 積積　3 C 球績　4 ①①①①①
A 諸署　B 求積　C 暑球績　①①①①①
部追任　残野年

解説

一　出典は、野口恵子『バカ丁寧化する日本語』。

問一　「二の次」には、大きく分けて「一番大事なことではない」と「後回し（急ぐことではない）」の二つの意味がある。「選手の声が聞きたい、選手の笑顔が見たい」というファンには、「これでよい」とあるから、「この言葉のここ」での意味は、後者の意味で使われていて、「インタビューの内容は」そして重要ではない、ということである。

問二　「スポーツ選手に対してするべき質問とはどのような質問ですか」という問いの形を見れば、答えを探すのは容易だろう。「～鋭い質問」と「～疑問に思ったことをぶつける」という形の質問」の二つしかないから、「四十字以内」という条件を満たすのは後者だけである。

問三　「試合を振り返ってください。」などと、アナウンサーや解説者の仕事を選手に押しつけて」とあるから、試合を振り返るのは「アナウンサーや解説者の仕事」なのだとということが分かる。そこで、「仕事を選手に押しつける」とは、それを選手自身にさせることだということになる。

問五　「水」を使つた慣用表現は数多くある。文脈から判断して、それぞれ、1「水をあける」（大きく差をつけること）、2「水を打つたよう」（大勢の人がしんど静まりかえつているさま）、3「水ももらさぬ」（警備が厳重なこと）、4「水に流す」（過去のいたずらをなかつたことにして、さっぱりとした関係になる）、5「水を向ける」（相手の関心を引き、答えるようにしむける）という言葉が空欄にはいる。

二　それぞれの助詞「の」は、1その文節が体言（おやつ）を修飾する働きをしている、2「の」が名詞の代わり（私の本）、3質問や確認を表す終助詞、4その文節が主語であることを表す。

三　文脈から判断して、それぞれ1「しおしお」（気落ちして力が抜けたさま）、2「ずけずけ」（遠慮やかげんをせず、はつきりとものを使うさま）、3「こせこせ」（気持ちにゆとりがなく、ささいなことにこだわって落ち着かないさま）、4「とげとげ」（態度や言葉が荒くてきつい感じがするさま）、5「ぬくぬく」（苦労や不自由がなく、満ち足りているさま）を表す副詞を答える。

四　同音異義語の問題。「後の「語群」はなくとも、答えられるようでありたい。

五 4 「南船北馬」（中国の南部は川が多く、船で行き、北部は陸地を馬で行くの意で、絶えず方々に旅行すること）をのぞけば、いざれも基本的な四字熟語ばかりである。

六 1 草木が衰えるから「冬」。2 鳴く虫から「秋」。3 カツコウの声から「夏」。「新治（にいはり）」とは“新しく開いた田畠や道”のこと。4 みかんむくから「冬」。5 目白は、繁殖期は5～7月で、さえずりも盛んなので夏の季語だが、仲秋から冬にかけて人里に降りてくる漂鳥である。「枝の雪ちらし」や「かすかに覚ゆ（）」の気配をから、この歌の詠まれた季節は晚冬であろう。

七 「A・B・Cには、：同じ音読みで共通した部分を持つ字が入ります」を手がかりに、漢字のしりとりはそれぞれ、1重責—責任—任意—意地—地面—面積—積年—年功—功績、2救急—急追—追求—求心—心外—外野—野球—球技、3諸國—国外—外部—部署—署長—長短—短期—氣絶—絶無—無残—残暑—暑氣、となる。